

2019年6月5日

楽しい歯の話

歯学博士 河村 純 先生

6月4日（昨日）は、「むし歯予防デー」、そして、昨日から6月10日までの1週間は、厚生労働省、日本歯科医師会などが主体となって実施している「歯と口の健康習慣」の期間です。

私ども「歯医者」の役割と言いますと、一般的に「歯のみを治療する」と思われがちですが、「口の周り全体の病気」を治しています。

今年に入ってから世間を騒がせた歯医者の関わるニュースとして、堀ちえみさんの口腔がんの中の1つである・舌癌のニュースがありました。首のリンパ節の方まで癌が転移していましたが、こちらの手術は、

「口腔外科医」という歯医者が携わっております。また、有村架純さんの姉である、タレントの有村藍里さんが美容整形を行ったことも話題となりましたが、この時に行う「顔の骨を切断する骨切り」も、「口腔外科医」という歯医者も担当することもあります。

このようにして、歯以外の口周辺の病気に、歯医者も携わっていることが多々あります。普段、口の中には全く興味のない方でも、テレビのワイドショーなどで放送されると、私たち歯医者は、患者さんから色々と聞かれることが多くなります。それだけ、芸能人など有名な方が歯口の病気にかかる、インパクトが強く「歯と口の健康」が身近に感じられるようになるようです。

そこで、今日は関心を持ってもらいやすいように、有名人を例にあげて「歯の大切さ」を話させていただこうと思います。「有名人」となると歴史上の人物になってしまいますが、「(1) 入れ歯に悩まされた有名人」「(2) むし歯で命を落としたと思われる有名人」についてのお話をします。

(1) 「入れ歯に悩まされた」歴史上の有名人

① ジョージ ワシントン大統領（アメリカ初代大統領、1732-1799）

先日、トランプ大統領が、令和になってからの初めての国賓として来日し、相撲観戦などを行いました。このトランプ大統領の45代前の大統領、200年くらい前の大統領、初代ジョージ ワシントン大統領は、入れ歯に悩まされていたことで有名です。彼について調べてみますと、28歳で部分的な入れ歯を使い始め、大統領になった時には、下の歯が1本しか残っていなかったそうです。当時の入れ歯は、大鹿の牙、象牙、カバの骨で作られ、スプリングで結ばれているような入れ歯でした。この入れ歯は、しっかり噛んでいないと、口から飛び出してしまうため、口元を閉めておかなければならないようだったようです。アメリカの1ドル紙幣の大統領の顔は、ムツとした表情となっていますが、入れ歯が原因の可能性が大きいと言われていました。さらに、入れ歯の不調のために、晩年、彼は怒りっぽくなり、演説も避けるようになり、人に会うのも嫌がったのだそうです。

② 滝沢馬琴（1767-1848）

また、ジョージ ワシントンと同じくらいの時代に日本で「入れ歯」に悩まされた人がいました。江戸時代末期の戯作者、滝沢馬琴です。馬琴日記によりますと、馬琴は、若いときから甘いもの好きで、虫歯に悩まされていたそうです。57歳で総入れ歯を使いはじめ、前歯をとめた三味線の糸が切れて入れ歯師に締め直してもらい、入れ歯の奥歯に金属の鋏（びょう）を打つなどして修理をしたとの記録が残っています。創作意欲などに影響が出ることを恐れたのでしょうか？馬琴は腕の良い入れ歯師に多額の金銭を払い、生活に支障が出ないようにしていたとのこと。



合わない入れ歯をはめていることによる生活への影響は、ワシントンや馬琴の時代に限らず、現代でも同じです。長期間、合わない入れ歯を使用し続けると、上の入れ歯が落ち、下の入れ歯の浮き上がりが生じやすくなります。それを抑えようとして、噛みしめ動作を頻繁に行うようになります。そのため、噛む筋肉である咀嚼筋（そしゃくきん）は、長期間緊張状態が続き、疲労が蓄積してし、筋肉痛の状態になります。その結果、口が開きにくく、噛みしめると痛みが生じてしまいます。さらに、噛み合わせに変化が生じることにより、身体のバランスが悪くなり、肩こり、頭痛が生じることがあります。

現代では、ワシントンや馬琴との時代より格段と入れ歯の技術は進んでいますが、「保険の入れ歯」では、どうしても噛めない・安定しないということがあります。そのような場合には、自分の歯のように噛めるような「自由診療」で作ることが可能な入れ歯があります。体の不調和が、お医者さんにかかっても治らない場合、原因は「入れ歯」にあるかもしれません。身近な歯医者にご相談されることを、お勧めいたします。

（２）「むし歯で命を落とした」歴史上の有名人

滝沢馬琴が生きた江戸時代。その時代の将軍で、「むし歯で命を落としたのではないか？」と言われている人物がいます。江戸時代の将軍をあげると、家康、家光、綱吉、吉宗、最後の慶喜などがあるのですが、「虫歯で命を落としたのではないか？」と言われる将軍は、14代将軍、徳川家茂（いえもち）です。NHKの大河ドラマにも時々出てくる和宮の夫でもあります。この将軍が生きたのは、ちょうど幕末であり、政治の不安定によるストレスがあったのか、家茂は、甘党で、砂糖菓子ばかりを食べていたようです。現在でも残る、徳川家茂の頭蓋骨を調べると、現存す31本のうち30本がむし歯でした。21歳の若で30本のむし歯があり、虫歯により歯の周りが感染し、全身に菌が回り死亡したのではないかとされています。「虫歯で命を落した将軍」はないかということになりますが、この幕末の動乱期に、将軍が虫歯で命を落とさなかったら、日本の歴史は変わっていたかもしれません。

実は、この幕末に生きた新選組の屈強の隊士、永倉新八も晩年、同じような理由で、虫歯で命を落としたと言われています。いくら屈強な人間であっても、虫歯などによる全身の細菌感染には勝てないことを証明しています。

現代でも、口の中むし歯・周病が悪化して、全身の健康状態に影響を与えることは少なくありません。最近、よく言われるのが「口と生活習慣病の関係」です。特に関係性のあるものを2つピックアップしましたので、配布しました資料をご覧ください。

① 「糖尿病と歯周の関係」

② 「歯周病と動脈硬化の関係」

古今東西を問わず、多くの人々は、「口の中の健康」が悪化することで体の不調が起こり、悩み苦しんできました。「口の中健康」を良い状態の保つことの大切さが分かりますが、ここで、一番大切なことは「歯を失わないよう予防」することです。この予防では、「①毎日の歯磨き」と②医者に定期的通いメンテナンスをしてもらう」の2点が大きく関わっています。

「歯と口の健康習慣」期間ということで少し硬い話となってしまいましたが、「口の健康」を守ることの大切さを少しでもお伝えできればと感じています。以上、ご清聴ありがとうございました。